【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立兵庫小学校

1　前年度 評価結果の概要	・いじめ問題や不登校児童支援等への対応については、管理職、学級及び学年等関係職員で早期に対応を図った。今後も、いじめ問題及び不登校児支援に対して、組織で対応を図っていく。 ・コロナ禍における授業及び学校行事等をどのようにつくっていくのかが課題であった。今後は、端末やIWBなどのICTの活用を含めた教育活動をICT推進リーダーや各主任等を中心に推
2　学校教育目標	あいさつ　笑顔　思いやり　心をそろえて　チーム兵庫 －正しく　かしこく　美しく－
3　本年度の重点目標	①心の教育を推進する ②学力の向上をめざす ③落ち着いた学校を作る

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示した共通理解を基に共通実践した教師を98%以上にする。	・研究テーマに向けて計画的に校内研を実践すると共に、学力向上に関する研修を学期に1回以上開催し、学力向上への取組を促進する。	A	・本年度から算数科の校内研究に組織的・計画的に取り組むことができた。 ・「研究テーマに向けて計画的に校内研が推進されている」と答えた職員は100%だった。	A	・
	○家庭学習の充実	○学年に応じた家庭学習時間を達成した児童を80%以上にする。	・家庭学習の手引き及び学習のルールを配布し、学校と家庭の両方で活用する。 ・年4回の「家庭学習がんばろう週間」を設け、家庭学習の習慣化を図る。	A	・「家庭学習頑張ろう週間」を年間4回実施した。家庭学習頑張ろうカードに保護者コメントを設けたり、結果を配布したりして家庭との連携を図った。85%の児童が学習時間の目安に合わせて学習することができた。	A	・達成できていない児童の手立てを考える必要がある。 ・学習時間と成績の伸びが比例していると良いと思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートにおいて肯定的な回答をした児童を90%以上にする。 ・「ぽかぽか言葉」を使う ・「笑顔であいさつができる」など	・人権教室を開催する。兵庫小児童をよりよく育てるためのアンケートを実施する。 ・ふれあい道徳教育として、参観日に道徳の授業を公開し、家庭と連携して取り組む。	A	・年間3回人権教室を実施し、自他の個性や違いを認め合う心やお互いを思いやる心の育成に努めた。 ・ふれあい道徳を実施し道徳の授業を公開した。友達にぽかぽか言葉を使っていると答えた児童は93%だった。	A	・保護者の感覚では悪い言葉を使う子がいるということを聞いている。言葉の意味を理解させる必要がある。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていると回答をした教師を90%以上にする。	・毎月児童及び保護者へのアンケートを実施する。 ・始業式の日に「レインボー作戦」の指導を全校で行い、その後各学級で指導を行う。 ・教育相談週間を設け、子どもの心の様子を把握し、学年、職員間で共有する。	A	・毎月、児童と保護者へのアンケートを実施し、いじめの早期発見と早期対応に努めた。いじめ発見後は担任、管理職、生徒指導担当など組織的に対応することができた。 ・学期初めに全校児童に対してレインボー作戦を行い、意識付けを行うことができた。教育相談週間を設け、児童に寄り添った対応に努めた。	A	・いじめ事案について納得していない保護者の意見も聞くので手厚いフォローも必要だと思う。
	○特別支援教育の充実	○学級に配慮が必要な児童が在籍する場合「個別の教育支援計画」「個別の指導計画に基づいた支援を行った職員が90%以上にする。」	・校内教育支援会議を開いたり、校内研修で児童の支援方法についての共通理解を深めたりして、具体的な支援に生かす。 ・巡回相談員や外部専門家等を積極的に活用する。	A	・特別教育支援コーディネーターを中心に校内支援会議や特別支援教育の研修会を計画的に開催し、支援が必要な児童への対応について職員間で共通理解した。個別の教育支援計画や個別の指導計画を記入する際に適宜指導を行った。	A	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を年間10回実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実践する。	A	・校内研修や若手教師へのメンター研修などを計画的に実施した。 ・各学級での係活動や学級会の中で児童1人1人に出番を作り、役割を与え、承認をえる場をつくることができた。	A	・自分を見てほしいと思う児童がいるので、1人1人を見ることが大切である。
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童を100%にする。	・「給食便り」で食育に関する内容を提供する。 ・年2回の「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を実施し、朝食の必要性を喚起する。	A	・「健康に食事は大切である」と答えた児童は100%であった。給食だよりや給食時間の全校放送、給食委員会のイベントなどで食育に関する情報を提供することができた。年に2回「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を記入することで生活習慣を意識させることにつながっ	A	・親が与える質にもよるので食事の質を家庭でも考えていく必要があると感じる。何を食べたのかを調べて児童が気付くきっかけを作ってほしい。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童の交通事故をゼロにする。	・交通安全教室の実施、学級活動などで交通安全に関する授業を行う。	A	・年度初めに交通安全教室を実施し、自転車の安全な乗り方や横断歩道の渡り方について指導し、安全に対する意識付けをおこなった。ヘルメット所持率が高まった。児童の交通事故はゼロであった。	A	・
	○運動習慣の改善や定着化	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童を60%以上にする。	・学級や各委員会の計画により、外遊びの機会を多く設けるようにする。 ・生活重点月目標を設定し、集会の講話や掲示資料を活用した指導を行う。	A	・各学級で外遊びを促す取り組みを行ったり、6年生と一緒に外で遊ぶ時間を設定したりして、外遊びする環境を整えた。朝の放送などで生活重点の月目標を伝えたり、教室に掲示したりして外遊びを促した。	A	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 月の時間外勤務時間平均を45時間以下にする。	・毎週金曜日を定時退勤日と設定する。 ・掲示板機能を活用し、連絡会の内容を効果的に伝達する。 ・各学年部会や3部会で業務を分担し、組織的に業務を遂行する。 ・業務改善の話し合いを年に2回実施する。	A	・時間外在校等時間の45時間をオーバーする職員がいるが、平均をすると33時間である。i-schoolの掲示板機能を活用して連絡したり、サーバーのデータを活用したりして業務改善することにつながった。学年部会や3部会を計画的に開催することで業務を分担したり組織的に遂行したりできた。	A	・児童が多いといろいろな問題があると思う。時間をかけて一つ一つのことに対応してくださっている結果だと思う。業務を減らすためにも保護者の協力を得る必要がある。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○					・		・

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・本年度の重点目標について、保護者アンケート及び職員アンケートでは、概ね達成できたとの成果が表れていた。 ・いじめ等の問題行動や不登校児童支援等への対応については、管理職、学級及び学年等関係職員で早期に対応を行った。今後も、いじめ問題及び不登校児支援に対して、組織で対応し未然防止、早期発見、早期対応を図っていく。 ・タブレット端末や電子黒板などのICTの活用を含めた教育活動をICT推進リーダーや各主任等を中心に推進していく。家庭学習が習慣化するように保護者と連携した取り組みを行ってい